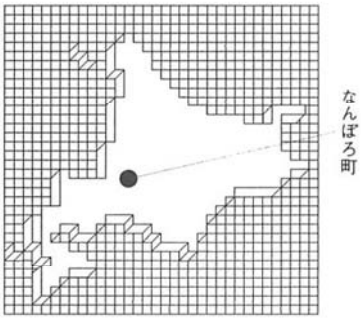
連載



あのマチ このムラ・地域おこし活躍中 No.14

南幌町の事例

緑豊かな田園文化都市

◇南幌町の概要

南幌町は、空知支庁の西南に位置し、東西一一・七六㎞、南北一三・八五㎞、総面積八一・四九平方㌔、周囲は空知支庁管内の栗沢町や長沼町と石狩郡石狩支庁管内の江別市や北広島市など一市三町に接し、山や高丘地のない平坦な町である。また札幌市から二五㎞東方にあり、千歳空港からも三七㎞と近く、有利な位置にある。

明治二〇年代、原始林に開拓の鍬が入れられて以来百有余年水害、凶作と闘った先人のたゆまぬ努力により、今日の農業基盤が確立された。

とくに大正九年より十六年間に及ぶ夕張川切替工事により、氾濫による水禍に悩まされていたが、今日この水害からも開放され、さらに戦後は幌向原野一、九三〇㌶が開拓されて沃野となった。

気象は水稲の移植期に、太平洋より日本海に吹き抜ける強風のため季節的に気温が下がるが、気温は概して温和である。四季を通じては昼夜の温度差が著しく、内陸型気候を有し、冬季間の温度は著しく低下することがある。

◇南幌町農業の現状

南幌町は総面積八、一四九㌶でうち農用地が五、六八〇㌶と六九・七%を占めている。田が五、四四四㌶で全耕地面積の九五・八%を占め、平坦かつ肥沃な立地条件を生かし、米を基幹作物とする農業生産を展開してきた。近年米の生産調整による転作の影響と札幌市等大消費地を背景とする地理的条件の優位性を生かして、高収益性作物である野菜、花きの導入を積極的に進めている。

農家戸数は平成八年で四四一戸うち専業農家一四二戸で、一戸当り経営面積は一一・二五㌶と大きい。経営規模別戸数では七・五～九・九九㌶が七九戸で一七・九%、一〇～一四・九九㌶が一三六戸で三〇・八%、一五～二〇㌶以上が一三二戸で、二九・七%となっている。とくに平成元年以降大規模化

表1　南幌町の土地利用状況

（耕地面積のうち、水田が全耕地の95.8%を占める）　単位ha

	総面積	農用地				宅地	山林原野	その他
		田	畑	放牧地	小計			
面積	8,149	5,444	220	16	5,680	379	30	2,060
比率	100	66.8	2.7	0.2	69.7	4.7	0.4	25.2

（資料：農業基本調査）

が進んでいる。

農業生産額は平成七年で五七億五四〇〇万円で、うち水稲が四八億二〇〇〇万円を占める。野菜が六億一六〇〇万円、花きが九一〇〇万円で野菜と花きの伸びが著しい。

◇町農業の課題と稲作の危機

このように南幌町農業は、山一つない平坦な土地の有利性を最大限に生かし、水稲を主体として規模の大きな専業農家経営を展開しながら着実な発展を遂げてきた。

しかし、昭和四五年から始まった米の生産調整は水田単作地帯である南幌町に大きな変化を与えた。転作の面積も増加の一途を辿り（平成九年一、五三九㌶で転作率三〇・三%）南幌町の平均経営面積一〇㌶強の大規模経営農家であっても、折角のスケールメリットが発揮できないだけでなく、規模拡大に伴う設備投資さらに転作作物に対する農業機械その他設備の投資が嵩み経営に大きな重圧となっている。

さらに国際的には貿易の自由化推進によりガット・ウルグアイラウンドの農業合意の受託によりWTO体制のもとでわが国の農業が非常に困難な状況に直面し、なかでも農業専業地帯の北海道農業、とくに稲作中核地帯である南幌町農業の受ける打撃は大きなものがある。

本年は豊作が続いたことから米の過剰在庫が発生、さらにミニマムアクセスによる輸入米により過剰在庫が積増しされた。

このため道内では農家に事前に支払う六〇㌔当たりの買い取り金（仮渡し金）が約二千円下がった。

南幌町の今年の米の生産量は二四万三千俵で減収額は関連損失額も入れて約五億五千万円に達する。

このため強力な生産基盤の確立とコメ単作経営からの脱却も検討しなければならないであろう。

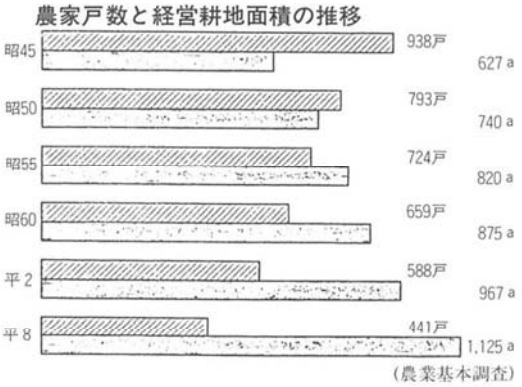
◇農業経営の基盤強化

南幌町では低温地帯であるため戦後排水対策を中心に土地改良事業が行われてきた。

昭和四十四年には南幌町土地改良事業本部が設置され、用排水路分離を行い、早期排水対策や区画の大型化に向け、道営かんばい事業、道営客土事業、農地開発事業、道営ほ場整備事業と土地改良事業が全町で実施された。昭和六十二年度完了までのほ場整備総事業費は二七九億円の巨額に達し、全国一の規模で土地改良事業が施工された。このほ場整備により米の平均反収は昭和四〇年代の三〇〇～四〇〇キログラムから平成元年～七年には五〇〇キログラムとなった。

◇「きらら街道」の誕生

昭和五十八年から平成十四年の完成にかけて、「道営広域営農団地農道整備事業」空知南部地区、空知南部二期地区が実施されている。これは江別市、南幌町、長沼町、栗沢町を結び、総事業費一一八億円総延長二七・六九六㌔で受益面積二二・六四一㌶、受益戸数三、〇八九戸で旧夕張鉄道跡地及び既設道路を一部利用し、国道二三四号（栗沢町・耕成）と既広域農道



◀南幌キャベツの収穫

（南幌町・晩翠）を結ぶ路線である。全路線の内、橋梁は六ヶ所、なかでも橋長七八二・六㍍長栗橋は、北海道内の農道橋としては最も長いものである。

これにより大消費地の札幌への最短のルートが出来上がることになる。今まで札幌中央市場まで車で一時間二十分かかっていたのが五十分と短縮された。

この道路は北海道の銘柄米「きらら397」の主産地である南幌町にちなんで〝きらら街道〟と命名された。

◇農業経営基盤の強化

南幌町では今後概ね十年後を目標に「南幌町農業基盤推進基本構想」を平成七年一月六日に決めた。これによると農業従事者一人当たり年間農業所得七〇〇万円程度、労働時間一人二、〇〇〇時間程度を目指すとしている。これを支援する農業経営基盤促進事業、その他の措置を総合的に実施する。

営農類型は水稲作経営、水稲＋畑作経営、水稲＋畑作＋野菜（A型・B型・C型）の五類型となっている。

担い手農業者の育成確保、農業後継者に対する研修及び配偶者対策として「グリーンパートナー推進協議会」の組織を核としての活動についても一層の強化を図ることにしている。

農地の流動化と担い手農家への利用集積に関しては農業委員会を核とした農地銀行活動と行政区単位で設置されている十一地区の農用地利用改善団体の拡充を図り、土地利用調整を全町的に展開して農地の集団化、連担化により利用集積されるよう努める。

◇第七次農協事業中期五ヵ年計画の見直し

南幌町農協では一九九二年二月に第七次農協事業中期五ヵ年計画を策定したが、一九九三年十二月のウルグ・アイラウンド交渉により米市場が部分開放されるという、戦後かつてないコメを巡る急転回の事態に対応し、五ヵ年計画の見直しをすることになった。

稲作については、稲作経営を存続させるべき土地利用型農業をきちんと位置づけて置くことと、同時にコメしか作れない農業から脱皮するためにそ菜の振興をはかることとした。

作物別生産目標を西暦二〇〇〇年に設定、農業粗収入を八四億円とし、一戸当り平均農業粗収入を一、七〇〇万円、一戸当り平均農業所得を七〇〇万円に目標を定めている。

二五ヘクタール以上大規模農家の水稲専業と生産規模別体系の確立を目指している。

◇農業構造改善事業等による農業施設の建設

南幌町では平成四年頃より野菜と花き振興のための農産施設の建設が始まった。

平成四年度農業農村活性化農業構造改善事業により、予冷・保冷庫を設備した「野菜等集出荷貯蔵センター」を建設。

平成五年度には同上の農業構造改善事業により新技術活用等供給施設、即ち「野菜等育苗センター」を建設した。これは南幌町が昭和六〇年に夏秋キャベツの産地指定

◀野菜等集出荷貯蔵センター

を受けて以来、市場における南幌キャベツの評価が高まり面積が拡大したのに対応したものである。さらに平成七年度にハウス一棟増設し、長ねぎ、ピーマンも対象作物として入れた。

平成七年度に地域農業基盤確立農業構造改善事業により「南幌町長ねぎ選別施設」が建設された。

平成九年度にウルグアイ・ラウンド農業合意関連対策として「地域農業基盤確立農業構造改善事業」として「南幌町西幌地区籾乾燥調整施設」が建設された。これにより米生産の共同化と生産コストの低減、省力化による高収益作物の導入が可能となった。

表2　南幌町主要農作物の作付け推移

（単位：面積＝ha、収量＝10ａ当たりkg）

	S50		S60		H2		H7		H8	
	面積	収量	面積	収量	面積	収量	面積	収量	面積	収量
水稲	3,800	445	3,590	485	3,250	515	3,820	513	3,630	466
小麦	57	186	1,420	468	1,750	324	696	107	854	205
大豆	9	133	60	293	12	258	9	247	13	162
小豆	398	143	189	167	182	203	249	167	250	122
甜菜	0	0	65	5,508	64	5,610	24	5,250	21	3,340
キャベツ	11	4,773	65	3,585	87	3,410	127	3,900	125	3,420

（北海道農林水産統計年報）

▲南幌町長ねぎ選別施設

◇緑豊かな住みよい田園文化都市の実現
―みどり野・南幌ニュータウン―

南幌町は札幌市まで約四十分、千歳空港まで高速道を利用して約三十分という立地条件に恵まれている。このため北海道住宅供給公社では南幌ニュータウン・みどり野住宅団地の建設を昭和五十年から開始、開発予定面積二二九・五ヘクタール、計画人口一二、二〇〇人計画戸数三、六〇〇戸（現在五五％分譲済み）で南幌町に近代的な街並みが出現している。

平成七年三月には町営南幌温泉「ハート&ハート」が建設された。町内外から入浴客が多数来て満員となり増設したが、また近く露天風呂を新しく設営することになった。

その外、夕張川を利用した大規模な「南幌リバーサイド公園」があり、スポーツ・レクリエーションの基地となっている。

また、南幌町は企業に対しての立地条件を生かして昭和四十八年から南幌工業団地の建設を始め、昭和五十八年には晩翠地区工業団地を建設したが五年間で完売し、平成九年新たに三二ヘクタールを増設中である。

今や南幌町は米単作経営の農業から近代的大規模稲作経営と野菜、花きを組み合せた複合経営へと農業構造の改革を進めると同時に大都市札幌圏の隣接地としての立地条件を生かして「緑豊かな田園文化都市」として二十一世紀へ向かって飛翔中である。

（レポーター　嘱託研究員　竹内　寛）

◀みどり野インフォメーションセンター